

西池

(にしいけ)



全景



ハス群落



野鳥の観察小屋

ため池の概要

ため池の所在地

滋賀県長浜市

ため池の特徴

西池は、大和朝廷の時代、蘇我氏と争い密かにこの地に落ち延び隠棲した物部守屋が、干ばつに苦しむ農民のために作らせたと伝えられています。

池ができた後、日照りになると人々は田桶を担いで土手まで来て、盛り土のないところからやっとの思いで水を汲み上げたと伝えられています。

西池は、今も湖北用水の農業用調整池として、57haの水田用水に利用されています。

春のソメイヨシノ、夏のハス、冬の雪とカモなど豊かな生態系による美しい景観を四季を通じ楽しむことができます。

池の西側にはスギ、ヒノキ林やコナラ林が混在し、東側の堤体にはソメイヨシノ、池の中にはハス群落やヒシ群落など94種の植物が確認されています。

また、オシドリなどの水鳥類の他、ゲンジボタルなど111種の生き物が確認されています。特に、オオヒシクイは、日本での南限渡来地となっており、学術的にも重要視されています。

「守りたい育てたい湖国の自然100選」にも選ばれており、望遠鏡のある観察小屋で気軽にバードウォッチングを行うことができます。

関連情報

滋賀のため池50選ホームページ

http://www.pref.shiga.jp/g/noson/tameike-nigiwai/select-50/44_nisi.htm